

万行寺報

Mangyoji Jihō

発行 浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾4 6 1-1
電話 0267-67-2460

2023(令和5)年

仏暦2566年

3月号

(第138号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

師と仰ぎ出遇える喜び

観見諸仏浄土因
国土人天之善悪
諸仏の浄土の因、国土入天の善悪を観見して

「現代語訳」
仏がたの浄土の成り立ちや、その国土や人間や神々の善し悪しをご覧になつて

引き続き『無量寿経』によりますと、法蔵菩薩が世自在王仏に申し上げるところです。

わたしはこの上ないさとりを求める心を起こし、わたしはひろく教えをお説きくださいます。わたしはそれにしたがつて修行し、仏がたの国のすぐれたところを選び取り、この上なくうるわしい国土を清らかにとどのえたいのです。どうぞわたしに、この世で速やかにさとりを開かせ、人々の迷いと苦しみのものを除かせてください。世自在王仏は、それは自身で

知るべきと言われましたが、法蔵菩薩は、

それは広く深く、とてもわたしなどの知ることができないものではありません。どうぞわたしのために、ひろくさまざまな仏がたの浄土の成り立ちをお説きください。わたしはそれを承った上で、お説きになった通りに修行して、自分の願を満たしたいと思えます。

と申し上げました。法蔵菩薩の志がとても深く広いものであることを知り、世自在王仏は教えを説いたのでした。そして法蔵菩薩のために、広く二百一十億もの様々な仏がたの国々に住んでいる人々の善悪と、国土の優劣を説き、菩薩の願いのままに、それらすべて目の当たりにお見せになったのでした。

このように、今月の一行も『無量寿経』に書かれています。様子を表しているところから、「観見」とは、ともに「みる」という意味です。さとりを得るための決意を師である世自在王仏に申し上げ、教え

を聞き、国土の様子をしつかりと拝見したのでした。

皆さまも先生はいても、師と仰ぐような特別な方は限られておられると思います。私にも師と仰ぐ方がいます。同じ僧侶として公私にわたって、時には厳しく時には優しくという安心感をもって接してくださいました。その方の言動そのものが、今になっても私の宝になっています。

また、話題は飛びますが、今月は野球のWBC、日本の優勝で盛り上がりました。野球のわからない方でも感動の日々を過ごしたと思います。その中で、栗山監督も注目され、監督の選手力を信じ切る采配があつたと聞かされました。次第に、選手一人ひとりが成長していく姿を見て感動に浸りました。

師を仰いだりそうなりたいたいという思いのなかに、師を通して見えてこなかったものに出遇えた喜びがどちらにもあります。師をもつということには、見えない大きな力に気づかされるものです。

浄土真宗 新 仏事のイロハ

三、お墓と納骨

―亡き人を偲ぶ縁として―

「遺骨を仏縁に」

姓の違う故人の納骨は？

ある女性から涙ながらにこんな相談を持ちかけられました。

「先方のご両親の反対を押しきって結婚した娘が先日亡くなり、葬式をすませたのですが、遺骨は婚家のお墓に入れてもらえず、かといって、わが家のお墓にも”姓の違う故人の遺骨は入れてはいけない”と人に言われました。どうすればよいかわかりません！」と。

これを伺って「親の心痛い、かばかりか」と思うと同時に、執られるべきではないことに執られ、自らを縛りつけて苦悩される親御さんの姿に、胸が痛みました。でも、ご安心ください。亡

き人を大事に思う心があれば、堂々と自家のお墓に納骨してください。「姓の違う故人は先祖の墓に納骨できない」のほかに、「勘当した息子の骨はいれられない」とか「仲の悪かった人同士を骨と一緒にするとケンカになる」などと言われ、気にする人がいますが、そういうことは宗教上、一切気にする必要はありません。

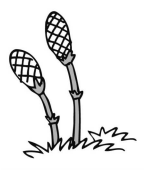
遺骨に対する偏見は、骨そのものを故人と見るところから生じます。しかもその故人は、生前の自己中心的な欲望や感情や、しきたりなどに縛られたままの故人なのです。実は、そういう目でしか亡き人を見られない私自身こそ

問題なのです。私の尺度で死後の世界を捉えようと、あげくの果て、不幸が重なれば先祖のせいにはかねないのがこの私たちです。迷っているのは私自身でした。

しかし、亡き人は何も骨のままです。浄土で仏さまとなり、私たちを救おうとはたらいしておられます。たとえ生前対立していた故人同士でも、「俱会一処」の浄土のことです。世俗のわだかまりから解放されて、ともに仲良く、念仏の教えを説いてくださっていることでしょう。

「骨のなわばり」を気にするのではなく、故人の遺骨をご縁として、根源のないのちの願い、真実の法を聞くことが肝心です。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より」



年忌法要表

1周忌	2022(令和 4)年	23回忌	2001(平成13)年
3回忌	2021(令和 3)年	25回忌	1999(平成11)年
7回忌	2017(平成29)年	27回忌	1997(平成 9)年
13回忌	2011(平成23)年	33回忌	1991(平成 3)年
17回忌	2007(平成19)年	50回忌	1974(昭和49)年

編集後記

「仏事のイロハ」の遺骨に関して、一概にこうだと決めつけられない問題が多いです。しかし、仏さま同士がケンカすることだけは無く、迷っているのは遺されている私たちです。人の話などには根拠無いことだらけです。迷われたら、そう人に言われたからではなく、住職などに相談されることをすすめます。